

住民主体のまちづくり

No.14 2015. 1

編集発行：車尾地域づくりモデル検討会

■前号につづき、首都大学の杉教授による助言の概略を掲載します。

●住民の間での広がり

この計画の中で、優先順位と具体的なアクションまでは出してもらいたいと思います。例えば災害時の要支援者の対策を立て、これを行いましょうという時に、防災部門と地域福祉部門の人達が、ちょっと一緒に議論していこう。他にもハザードマップづくりと環境面と一緒に話し合ってみようとか、今のメンバーであればある程度熟した議論が出来ると思いますが、新しいメンバーは、なかなか同じレベルの話は出来ないと思います。当然だと思います。どこまで浸透させるのか、そこの部分は考えていていただきたいと思います。そうした時にこうやろうというような具体的なことを決めても良いと思います。そこまで出せるかどうか、今日のお話を聞いている限り出来ると思います。住民の間での広がりを作る。そういう場を作ることはなかなか難しいと思います。しかし是非ここはやっていただきたいですね。そこが伝わらないうちに組織を入れ替えてしまうと、また0ベースに戻って、やってみたら、また、同じことが出てきました。同じことをあまり繰り返すのは、先に進まないかなと思います。でもしっかりと伝わっていれば、少しメンバーを入れ替えても、蓄積の上でこういうことをやっていこうということになると思います。

2月に来たときには、これから何をしていくのかも分かっていないような雰囲気、みなさんそれぞれ思いはあったとしても、それがここまで来たということで、凄いいスピードで進んでいると思います。じっくりとちょっと裾野を広げていくということが重要になってきます。

●既にやっていることの広報を

例えば「子ども見守り隊」、これも地域づくりの1つだと思って、既に募集をはじめておられます

が、こういった見えるものがあった方が良いと思います。今年度中にこんなことを始めたというようなものがあった方が良いと思います。いくつかあると思いますが、「子育てカーニバル」もこの事業だとは住民の方には分からないでしょう。これを伝えるようにしなくてははいけません。それぞれの団体でいろいろと良いこともやっておられると思います。それをどうこの事業と結びつけ伝えるのか。そうでないと何をやっているのか分からなくて成果も無いということになりかねませんので。そこは積極的に売り込むというくらいの気持ちで。本誌を作成して各世帯へ配布していますが、住民の皆さんは読んでいないと言われますね。皆さんも住民の立場からすると市役所が「やっています」と言っても、読んでないということと一緒に、皆さんは住民の中に居る訳ですから、事あるごとに自治会などの単位で丁寧に伝えていくということをお願いしたいところですね。

●予算について

今後予算をつける場合には住民のみなさんに見える予算に示すようにしなくてはいけないという話をしました。今予算を今年度こういう具合にやりましたというものを住民の皆さんに伝えてありますか。どのように伝えてありますか。各団体の予算を各団体の総会で報告して終わっていますよね。この地域全体の力は各団体がいろいろやって地域の力になるわけですから、持ち寄って全体としてはこういうようになっているのだ、というものを示しても良いと思います。新しいことやるのであれば、何処からお金が来るのですか。市が補助金をくれるかもしれませんが、全額ではないかもしれません。今お金を使いようがなくて困っている団体、お金なくて困っている団体、何に使おうかと思っている団体など様々だと思います。それも含めて示すことが重要だと思います。

自分たちのまちは 自分たちの力で